

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2024 春
vol. 36



野遊び DAY'24
in 大房岬自然公園
4月6日(土)
※雨天順延日7日(日)

大房岬自然公園では4月初旬に「野遊び DAY」というイベントが開催されます。ツリーイングで木登り体験、巨大シャボン玉飛ばし、SUP体験など春の大房岬を満喫しましょう♪(南房総市 大房岬自然公園)



千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます。

も く じ

□不易流行	…2	□千葉県立君津亀山青少年自然の家	…7
□ろくすけ日和	…3	□南房総市大房岬自然の家	
□千葉シニア自然大学	…3	千葉県立大房岬自然公園	…8～9
□受託・ネットワーク事業	…4～5	□ちば・体験活動ネットワーク	
□現場レポート	…6	団体紹介・会員校フィールド紹介	…10～11
		□千葉自然学校スタッフ紹介	…12

新年早々能登半島で震災があり、心痛める2024年のスタートとなりました。被害に遭われました方々に心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、災害支援やボランティア活動にあたられている方々には深く感謝申し上げます。

さて、今回は、「自然体験活動と災害というテーマ」で話をしたいと思います。東日本大震災の後、文部科学省は「青少年の体験活動の推進」として防災キャンプ推進事業を立ち上げました。そのため、全国各地の学校や地域で防災キャンプが実施されるようになりました。これまでの防災関連の事業は、「避難訓練」が中心でありましたが、現在行われている防災キャンプの内容は、段ボールハウスや寝袋で寝る体験などの避難生活体験が主流であり、他にロープワーク、救急法、救助訓練、救急搬送法、ハザードマップ検証、非常食(カンパン、缶詰など)の試食、炊き出し体験(トン汁等)などの多彩なプログラムが盛んに行われるようになりました。このような体験を通して、防災に対する意識を高めることや災害時に役立つ技術を身に着けることを目的に、防災キャンプが行われています。

災害時に大切なことが、3つあると言われています。自分で自分の身を守る「自助」、周りの人と助け合う「共助」、国や自治などの公的支援を受ける「公助」ですが、特に「自助」と「共助」が大切であると考えられます。自分で自分自身を守れなければ、他の人を助けることができません。自分を守るための知識や技術があれば、行動に余裕が生まれ、家族や他の人達に手を貸すことができるようになります。そうして、災害時の大変な状況も乗り切ることができるのだと考えられています。

ところで、キャンプなどの自然体験活動で行われている体験が災害時に役に立つということが言われています。自然体験活動で培った知識や技術がどんな場面で役に立つのか考えてみましょう。

第一に、「生活スキル」です。自然体験活動で行っている活動が避難生活で役に立ちます。

被災して先が見えない中、自然体験活動の経験者は、「こうしたら寝られる」「こうしたら食べられる」「こうしたら問題を解決できる」と

いうことを体験から理解しています。ロープワークの技術を駆使しタープやシュルターを張ることで避難生活でもほっとする空間をつくることができます。また、おこした火をコントロールすることで、寒さから守ったり、調理したりすることができます。

第二に、「応急手当と基本的な医療スキル」です。擦り傷や切り傷、捻挫や骨折など基本的な応急手当や心肺蘇生法のスキルを、自然体験活動では日ごろから学んでいるので、災害時には大いに役立ちます。

第三に、「コミュニケーションスキル」です。災害時には、被災した人たちと協力し合い、支援し合うことが求められます。自然体験活動でのグループ活動の経験や、協力して仕事を進める経験は、災害時においても連帯感や協力関係を築く上でプラスに働き、コミュニティ形成に役立ちます。

最後に、「折れない心、あきらめない心」です。キャンプなどの自然体験活動では、電気やガスのない不便な自然環境の中でも、工夫することによりキャンプ生活を楽しんでいます。また、登山やソロビバークなどのプログラムでは負けない心やチャレンジする精神を養います。そうした、強い精神によって災害時に生じる様々な問題や課題に対しても解決に向かって努力することができるのです。

千葉自然学校では、子どもや大人に対して、一年を通して、自然体験活動を提供しております。特に防災や減災を目的として実施しているわけではありませんが、様々の問題に対して、主体的に取り組み、他の仲間と協力して、課題を解決できるような「生きる力」を育んでいきたいと思っています。



不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『母屋と連れ添った長屋門』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

2月も半ばを過ぎると、庭一面に咲いていたスイセンも枯れて、フキノトウが顔を出してきました。ろくすけでは、みそづくり、母屋の一部屋根の修理、解体が決まった長屋門の片付けと忙しい日々が続いています。令和元年の台風以来、無残な姿をさらしていた長屋門については、改修か解体か悩みましたが、今後を考えてこの3月に解体することになりました。

スタッフが交代で来て、中の片付けをしました。一本の木をそのまま使った農具も出てきました。元の家主さんに聞くと、牛に引かせて粃を広げるときに使ったとか…。脱穀した粃を庭いっぱい干すときに使ったのでしょうか？糸繰り器も出てきました。これらの道具は不要と燃やしてしまうことも出来ますが、里山のアートとして残してみようと思っています。今あるものの命をどれだけ伸ばし、最後まで使い切るか…。ろくすけのテーマの一つです。



長い間風雨に耐えた長屋門

いつもはソラマメを植えていた畑は、今年はヒマワリの種をまきます。一面のヒマワリ畑で、有害鳥獣ではなく人を呼ぼうと計画しています。ぜひ夏頃にヒマワリ畑を見にろくすけへ足をお運びください。
(文：遠藤陽子／サニー)

千葉シニア自然大学 ～自然と俳句講座の吟行風景～

かさ
夏の日の 襲ねの色目百花園 (2023年初夏の吟行にて 6月21日 於向島百花園)

しゃがみ込みマフラーで拭く骨董屋 (2023年晩秋の吟行にて 11月15日 於中山法華経寺骨董市)

この2句は、昨年の夏、秋に行われた俳句講座の吟行で詠まれた句で、参加者全員が評価し最高句に選ばれた句です。出来栄えの方はいかがでしょうか？

全員が出来栄えを評価して点数を入れ、その合計でその日の最高点を獲得した句がこの2句でした。高点数を得ることは作句する上での励みになります。昔から行われている俳句上達のやりかたです。

句会は塚本ビルの会議室にて催されていますが、10回講座の内2回は会場を出て、その場で作句してお互いが評価し合う会が吟行です。通常の句会では自由題と予め出題された季語を基に作句しますが、吟行は限られた場で一同に会して作句する創作スタイルです。

吟行では、俳友たちが同じ場所で同じ瞬間を過ごしその場で感じたことを5・7・5という俳句独特の方法で表現する機会です。限られた場で作り講評し合いますので、他の句と比較されることになります。創作

者の感性と表現力が問われます。十七字という語句数制限、季語入りという独特のルールを意識しながら言葉紡ぎ凝縮していきます。講座の先生(師匠)曰く、説明するだけの句は駄作、いろいろな解釈ができる句が佳作ですと。この講師の指導に沿って良い句が選ばれます。選ばれたこれらの句に、カメラで切り取った一瞬良質な写真のような巧みさを感じませんか。

(文・写真：浅井 信)



東京向島の百花園にて。作句に励む俳友たち。

《受託・ネットワーク事業》



『千葉県・中山間ふるさと活性化チャレンジ事業』研修会&農村ステイ報告

千葉県内の中山間地域においては、過疎化、高齢化等の著しい進行により、地域の活力が低下しつつあります。そのため、農地や土地改良施設の利活用を基本とする地域住民活動の多様な展開を促進することにより地域の活性化を図り、農業・農村の有する多面的機能の発揮を促すことが求められています。

そこで、県内の農業関係科を有する高等学校の生徒らによる、中山間地域の農地や土地改良施設（用排水路、ため池、農道など）及び農林産物等の地域資源の学びと、「農」を活用した地域活性化企画の実践等を通し、中山間地域と関わりを持つ人材の創出、中山間地域及び地域住民活動の活性化を図るため、千葉自然学校では千葉県から委託を受けて本事業を実施しています。

中山間地域スタディツアー@大山千枚田保存会

令和5年10月11日（水）に鴨川市大山千枚田で、農業関係高等学校4校48人の高校生が、棚田の保全や地域活性化に向けた取り組みの説明を受け、実際に棚田の水源を探検しに出かけました。中山間地域の農業や現状と未来について学びました。



中山間地域スタディツアー@館山パイオニアファーム

令和5年11月29日（水）に館山市館山パイオニアファームで、農業関係高等学校2校45人の高校生が、いちじくの栽培から食品加工、販売まで行う館山パイオニアファームへ訪問。高校生は、経営者の齊藤ご夫婦からいちじく経営やいちじくの栽培方法について教わり、農園での作業を手伝いたくさんの学びを得ました。

農村ステイ@勝浦市大森

令和5年11月14日（火）～15日（水）1泊2日で千葉県勝浦市大森地区ふるさと保全指導員副会長宅に農業関係高等学校5人の高校生が農村ステイに訪れました。地域住民と農作業や薪割りをお手伝いし、中山間地域の農村に宿泊し、作業体験を通して、中山間地域の現状や今後を考えるきっかけになりました。



農村ステイ@南房総市平久里地区（古民家ろくすけ）

令和5年11月25日（土）～26日（日）1泊2日で千葉県南房総市平久里地区古民家ろくすけに農業関係高等学校5人の高校生が農村ステイに訪れました。地元花農家では花の肥料やりを行い、地域ではホダ木用の伐採をお手伝いしました。実際に農村に宿泊して作業体験を通して、中山間地域暮らしの現状や今後を考えるきっかけになりました。

（文：小松 敬／ボクサー）



コスモ石油「学校の環境教育支援プロジェクト」

2009年より、コスモ石油株式会社千葉製油所と千葉自然学校がパートナーシップを結び、市原市の小学校に対して、年間を通した環境教育を実施しています。活動を通して、森を身近に感じ、森と自分たちの生活のつながりを感じてもらうことで、普段の生活を見つめなおし、行動につなげるきっかけをつくることを目標としています。

今年度は、市原市立辰巳台西小学校の4年生の皆さんと一緒に、学校での活動3回、森での活動を1回、コスモ石油での活動（製油所見学）を1回、計5回の活動を実施してきました。

森での活動では、森について知ってもらうため、生き物探しや観察会を行いました。子どもからは「初めてこんな生き物を見た!」「初めて知った!」という声も聞こえ、生き物探しや観察会を通じて、森の豊かさを感じたようでした。

また、来年度以降森に来てくれる子たちに向けて、子どもには「森にいる生き物の看板」を作成してもらいました。授業の時間一杯まで観察をしている子や、生き物について熱心に図鑑で調べている子もあり、活動を重ねるごとに森や生き物などの自然に対して、興味・関心が高まっている様子が感じられました。

その後の活動についても真剣な様子で取り組んでおり、特に工場見学の際には、質問が途切れないほどで、充実した時間となりました。最後には年間の活動の中で感じたこと、自分がこれから森などの自然環境に対してできることを考えてもらいました。紙一杯に書いている子もあり、学校の先生方も今回の活動が自然について考えるきっかけになったと感じ取られたようです。今回の活動で子ども自身が感じたこと、考えたことが普段の生活に生かされることを願います。

(文：長瀬詩緒里／ちゅん)



『みんなでSDGs ちば食育体験プログラム』江戸前ちば海苔を学ぼう!

そごう千葉店よりご依頼を受け、千葉県の農産物について収穫や調理等の体験を通して食育・SDGsについて考えてもらおうというイベントです。今年は富津市の「海苔」をテーマに、2日間実施しました。16名の小学生と初日は海苔の話と海苔すき体験、海苔工場見学、海苔摘み体験と漁師さんのお話を聞くという海苔づくりの1日。2日目は海苔を使用した調理実習と、学んだことをまとめた壁新聞を作成しました。

温暖化や、後継者不足、鳥や魚の食害により県内産の海苔は減少しているという話を聞き、子どもからは「漁師さんを応援するために千葉の海苔を買う」「海苔を無駄にしない」「海苔の現状を友達に話す」など、今の自分たちに出来るアイデアがあがりました。

海苔だけに限らず農作物によっては自然や人、資金など様々な要因で縮小しなければいけない現状があります。子どもたちには千葉の農作物の現状を知り、食べ物を大切にするという気持ちを育んでもらえたらと思います。

また、壁新聞は2月いっぱいそごう千葉店で掲示されていました。お買い物をされている方にも江戸前ちば海苔の現状を知っていただけたら幸いです。



(文：山崎大地／だいすけ)

12月～2月 主催事業現場レポート

大人

房総の古道を歩く 「安房勝山 頼朝巡り」



加茂坂峠より北東へのびる尾根は浅間山方面へ向かい、途中西に尾根を巻きさらに北東へ延びる尾根に合流します。馬頭観音群は圧巻です。

川崎さんの案内なくしてはなかなか通れないルートです。また、九重駅より入山口へ向かう畑には菜花の群生が咲き誇っていました。一足早い春を満喫し楽しい1日となりました。

(文：佐藤昭仁／アリ)

2/17(土) 南房総市・館山市
加茂坂峠～浅間山ハイキング 古道巡り

房総を歩こう4回目は九重駅から南三原駅へ向かうロングコースを歩いてきました。今回川崎勝丸さんにご案内いただいた古道は加茂坂峠。訪れる人も少ないコースで、さらに峠より浅間山に向かう山道は知る人も少ない古道です。

加茂坂峠は国道ができる前から街道としてにぎわっていたそうです。安房国司祭 鶴谷八幡宮例大祭（やわたんまち）へ向かう神輿もここを越えたといわれています。山道にしては幅も広く、街道筋の面影の残る古道です。



子ども

スノーあそベンチャー

12/25(月)～28日(木) 舞子ロッジウインターポイント
スキー



サラサラの雪！
超気持ちいい～！

今年も南魚沼市の舞子スキー場へ。「小回りを上手くできるようになりたい」「平行で滑れるようになりたい」など自分の目標を持ち、一生懸命取り組む姿が印象的でした。

また、スキー特有の疾走感、初めて行く斜面のドキドキ感、滑りきった時の達成感など、「自分でやってみたからこそ感じられる」気持ちを味わい、この時感じた一つ一つの感情は、大人になっても忘れないことでしょう。

ロッジ内でも、皆で食事の準備や備品の確認などを行い、生活面での成長も見られました。たくさん滑って、たくさん笑いあった素晴らしい4日間でした。

(花嶋/ぽによ)



～ き み か め 便 り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。
清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの
野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪



千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家 所長 庄司達哉 「火口（ほくち）」

みんなが大好きな焚き火。火をおこすということは2つの行程に分けられます。まずは「着火」です。マッチやライターで火をつける、またはメタルマッチなどのファイヤースターターで火花を出すなど、小さな火種がないと着火はできません。着火で小さな火が付いた後は「火を育てる」。着火した後に火がついているのは細い木や枝です。少しずつ太い枝や薪を足していくことで小さな火が大きなたき火に変わります。「着火」と「火を育てる」両方がうまくいかないと火はつきません。「着火」を助けてくれる小さな火でもつきやすいものを「火口」とかいて「ほくち」と言います。では「火口」にはどんなものがあるでしょう？身近なものではティッシュペーパーや麻ひもを繊維状にほぐしたものは燃えやすく簡単に着火できます。また綿布を空き缶などに入れて炭化させたものはチャークロスといいますが、着火しやすくゆっくりと燃え続けるためアウトドアで重宝します。コットンボールにワセリンをしみこませたものも優秀な火口です。

苔や乾燥したキノコ、束ねて繊維をけば立てさせた枯草、タンポポ・アザミなどの植物の綿帽子、繊維状にほぐした杉の皮など、自然の中から火口を調達することもできます。何かが火口として使えるか、いろいろと試してみるのも楽しいものです。



きみかめ掲示板

【イベント報告】 1月21日(日) 森っこレンジャー④～冬のクラフト教室～

当日はあいにくの大雨だったため屋内で活動しました。午前中は森の木を使って囲いを作り、その中に落ち葉や枝を隙間なく敷き詰め、カブトムシのすみかを作りました。「森を整備することで、生き物がたくさん生息する森になる」という話を聞き、どんな森が生き物にとってすみやすいか、考えながら整備をしてくれました。

午後のクラフト作りでは、子どもは切り出しナイフやのこぎりなど使ったことのない工具を使用し、最初は苦戦していましたが徐々に慣れ、最後は扱いこなせるようにまでなっていました。チャレンジする姿はとてまたくましく、また一つ子どもが成長したように感じます。

小林奎太(しゃり)



【自然情報】 花言葉に秘められた想い

冬の静かな森の中、鮮やかな濃いピンク色の椿が目に残ります。まだいくつか蕾もありますが、見頃を迎えています。

椿全般の花言葉は「控えめな優しさ」「控えめなすばらしさ」「気取らない優美さ」「誇り」です。「控えめな」という言葉が多いのは、椿は華やかで存在感がある花を咲かせるのに対し、香りがほぼ無いことからきているそうです。

華やかで、奥ゆかしい花言葉をもつ椿をきみかめに見に来ませんか？

須田風香(しふうん)



～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」
「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、
地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方が訪れます。



・南房総市大房岬自然の家
・千葉県立大房岬自然公園



南房総市大房岬自然の家 所長 神保清司

大きな自然災害に見舞われた被災地の暮らしを見るたびに心が痛みます。心よりお見舞い申し上げます。

「半島」という地形的に大きな不利があることは、様々な視点からよく語られます。半島の救援の際は、陸路が寸断されると海路となりますが、土地の隆起によって船をつけるための港湾施設が使用不能となり、海中の形状も変わることによって航路の安全性が保たれなくなるのです。

農業用のビニールハウスをシェルターとして知恵と技術を集結し協力をして
生き延びる人々の姿を見ると果たして自分はあんな風に…と思いを巡らせます。

日々の暮らしに災害時想定を落とし込むきっかけ作りとしてやはり自然体験活動
は有効です。大房岬ではサバイバルの居炉習(いろは)と称して自分の生命保持
スキルを高める体験を提供しています。出会いたくない「その時！」に備えて。



千葉県立大房岬自然公園 公園長 山口亮介

毎年地元の幼稚園の子どもへの森の中での自然体験の依頼を受けています。ガイドツアーをした後、森の中の宝探しという事で〇〇のどんぐりや〇色のものといったキーワードに沿ったものを探してもらい、みんな楽しんでくれています。この年代の子たちは良くも悪くも正直なので、こちらの乗せ方次第で驚くほど熱中してくれたり、すぐに飽きてしまったりと極端です。いかに熱中させるかこちらの腕が試されます。また、この世代での自然体験によって今後の自然観が養われていくと思い、責任感を持って体験指導にあたっています。



株式会社 体験と健康 料理長 松田光央

(南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂 運営)

2024年の幕開けは波乱に満ちたものでしたが、そういう時こそ、歩みを止めてはなりません。毎年恒例の野遊び DAY in 大房岬を今年も4月に開催いたしますので、多くの方に明るい気持ちになっていただけたら幸いです。

前回は旬の食材を使ったお弁当を販売しましたが、
今回は出来立てのものを提供いたします。

温かいものを食べて、体も気持ちも元気になって
いただけることを願っております。

大房岬でお待ちしております。





Taibusa-misaki

春を運んでくる赤い虫



春分の時季になってくると昼間は暖かい日が増えてきますね。フキノトウやタラの芽などは少し旬外れになってくる頃。でも桜やアゲハ蝶を見るにはまだ早い、今時期はそんな頃合いですが、一足早く動き出す昆虫たちがいます。卵や蛹ではなく、成虫のまま越冬した蝶やテントウムシたちです。もう既に、食事などに精を出しています。

自然の家でも彼らの蠢動※を感じる機会があり、「アカオサムシ」という虫がしばしば施設内に迷い込みます。この虫は、房総半島南側に生息する個体のみが、赤い色をしています。彼らは寒くなると、崖や枯れ木の隙間に潜りこんで冬を越します。冬眠から目覚めた彼らは餌を求めて歩き回り、建物の中にも入ってきてしまいます。

私はこの鈍い赤色を見ると「もう春が来るんだな」と感じます。冬から春、季節が移り替わるこの時期だからこそ味わえる・発見できるものもあります。生活の中にも何気なく入り込んで来ることもあります。皆さんの周りではどんな季節の移り変わりがありますか？

冬から春へ # アカオサムシ # くさいので触らない方が吉

伏谷海斗(ふうせん)



いいね！ 37 件

※蠢動(しゅんどう)...

虫がうごめくこと、物がむくむくとうごくこと。

たいぶさ岬掲示板

岬レンジャー

イベント 報告

年間シリーズの岬レンジャー、12月の内容は「カブクワの幼虫のすみかづくり」。展望塔の周りの森に穴を掘り、皆で集めた落ち葉を入れて夏の人気者カブトムシ・クワガタの幼虫が住みやすい腐葉土づくりを行いました。このイベントが未来の大房の森のためになるように参加者は頑張って活動してくれました。

山口亮介(こめ)



怪魚！鰐(うつぼ)釣り

イベント 報告

大房岬の海でウツボを釣って・捌いて・食べました！ウツボの生態と釣り方を伝授して、いざ海へ！試行錯誤を繰り返し、無事全家族ウツボを釣ることができました。

釣った後は、ウツボの捌き方をレクチャー。ヌルヌルしているウツボに悪戦苦闘しながら、家族ごとに頑張って捌きました。捌いたウツボは唐揚げにして美味しくいただきました！

坂井遥(うつぼ)

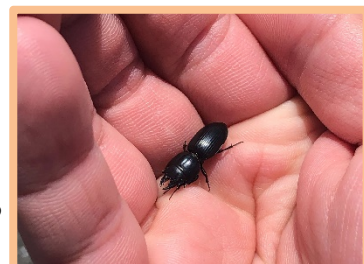


ヒョウタンゴミムシ

生きもの 紹介

ビーチコーミングをしていると打ちあがった貝や流木の下から小さなクワガタムシのような昆虫を見つけることがあります。体長2センチほどの彼らはゴミムシの仲間で、クワガタのようなあごは打ちあがった生き物の死骸や他の海浜性の昆虫を捕食する際に使われます。前脚が熊手状になっていて地面に穴を掘る習性があり、手に乗けると指の隙間に潜ろうとします。

伏谷海斗(ふうせん)



《ちば・体験活動ネットワーク》

千葉を元気にする 会員校をご紹介！

千葉自然学校は、ネットワーク型自然学校として

『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、『千葉自然学校ネットワーク会員校』としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。

県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

会員校紹介特別編！



自然体験



子育て



人材育成

第18回森のようちえん全国交流フォーラムin千葉

2023年11月3日から5日間までの期間、大房岬自然公園にて「第18回森のようちえん全国交流フォーラムin千葉」が開催されました。フォーラムの様子を森のようちえんはっぴー代表で、実行委員長を務められた沼倉幸子さんにお伺いしました。

季節外れのような陽気の中、日本各地から320名という大勢の専門家、保育者、保護者、行政関係者、そして森のようちえん実践者が集いました。

フォーラムのテーマである「モリ ウミ ヒト 私たちの内なる自然が響きあう～集い語らい命を醸す3日間～」に基づき、一日目は生物学者の福岡伸一氏の基調講演「生命とは何か」と、パーマカルチャーデザイナーの四井真治氏の特別講演「いのちの仕組みに沿った暮らしと本当の豊かさ」が行われ、その後に福岡氏と四井氏の対談が繰り広げられました。



開会式の様子



分科会:野草と木の実を食す！

2日目は学びの日として32の分科会が展開されました。全国から魅力いっぱい個性豊かな講師陣をお招きし、座学からワークショップまで幅広く知識と情熱を共有しました。参加者の皆さんも楽しみながら学んで頂けたようです。

夜の交流会では千葉の名産が詰まった食事、竹楽団による音楽、そして参加者皆さんの熱気で盛り上がりは最高潮に。興奮と感動の中2日目は終了しました。

3日目は総まとめとして、大妻女子大学の久保健太氏と山の遊び舎はらぺこ代表の小林成親氏の特別対談「風土・文化・土壌に即した暮らし」と3日間の振り返りを行いフォーラムは幕を閉じました。

今年度は千葉県自然環境認証制度施工の年と重なり、千葉県内から多くの保育関係者が集い学びを共にすることができたことは大きな喜びの一つです。

開催期間中は千葉県内の様々な団体の皆様にもご協力をいただきました。ヤックス自然学校による「キッズキャンプ」、くじらのもり自然学校と千葉自然学校による「森のようちえん」、千葉県冒険遊び場ネットワークによる「プレーパーク」など、参加者や地元の子もたちが南房総の自然の中でたっぷり遊ぶことができました。来年度は埼玉で開催予定。興味のある方はぜひご参加ください。



分科会で焚火を楽しむ参加者

取材:山口亮介(こめ)

食と農の体験工房「よもぎ館」

鈴木 和子さん



イベント参加の子ども達と！

食と農の体験工房「よもぎ館」は山武市松尾で収穫体験や加工品販売を行っています。館長の鈴木さんは太巻き寿司作りの達人！道の駅オライはすぬまにも出品されています。今回はイベントの様子を取材してきました。

1月中旬によもぎ館のイベント「成木餅作り」のイベントに参加してきました。成木餅とは千葉の北総辺りにある風習で、柿など木の実がなる木に餅を刺し、五穀豊穡や厄払いを願う、小正月に行われる行事だそうです。この日はよもぎ館大ファンのご家族3組12名が参加されていました。

お餅を小さくちぎって手で丸めて、木の枝に刺すという工程ですが、小さな子どもでも出来るので、参加の子ども達は楽しそうにお餅を丸めてその感触を楽しんでいました。またお餅を枝に刺すという日常ではあまりしない光景に驚きつつ、大人も子どもも完成した成木餅で一緒によもぎ館の五穀豊穡を願いました。お昼にはお雑煮やあんころ餅、鈴木さんお手製の太巻き寿司など美味しいメニューがずらり！



和気あいあいな雰囲気で、お話も弾みます♪

最後は畑の新鮮野菜とお餅のお土産を頂いて、お腹も両手もいっぱいの楽しい時間を過ごしました。よもぎ館では約2町(1ha)の田畑を管理していて、トウモロコシやラッカセイ、ジャガイモ、ダイコンなど様々な作物を育てています。またブルーベリーやイチジクの木、シイタケの榎木もあり通年を通して収穫体験を楽しむことができます。

他にも絶品の太巻き寿司や専用の機械で作る乾燥野菜・乾燥果物など加工品も充実。道の駅への出品の他、週末にはよもぎ館で朝市も実施。新鮮野菜や太巻き寿司、フルーツサンドなど地域の方からも大人気だそうです。

今後は今ある環境を維持していくとともに、広いスペースがあるのでオートキャンプ場を作れたらいいなお話されていました。イベントに参加されていたお母さんたちも「やりましょう！」と大興奮！よもぎ館のイベントはリピート率が高いそうです。鈴木さんだけでなく参加者の方々と楽しみながら意見を出して「参加者で作るキャンプ場」に近い将来実現しそうだと思います。



成木餅の完成！

「楽しいから続けられる。」と笑顔で語っていた鈴木さん。シンプルだけれど長く続けていく上で一番大切にしなければいけないポリシーを教わった気がします。

【収穫体験のお問い合わせ先】

食と農の体験工房よもぎ館：0479-86-3794

取材：山崎大地（だいすけ）

【北総エリア】

- ・ワイスノーズ & アウトドアスクール ・NPO 法人佐倉みどりネット ・一般社団法人千葉県環境財団 ・千葉伝統郷土料理研究会 ・「わたしの田舎」谷当工房
- ・一般社団法人千葉県観光公社(国民宿舎サンライズ九十九里、千葉県立内浦山県民の森、千葉県立館山野鳥の森) ・ヤックス自然学校(株式会社千葉薬品)
- ・林造園土木株式会社 ・株式会社 HMC 東京旅行事業部 ・有限会社銚子海洋研究所 ・ピーちゃんクラブ・ぬく森くらぶ ・食と農の体験工房「よもぎ館」
- ・スコープジャパン株式会社 ・ちば千葉国際コンベンションビューロー ・一般社団法人さんむアクションミュージアム

【上総エリア】

- ・Live Stock ・上総自然楽校 ・NPO 法人大山千枚田保存会 ・NPO 法人市津・ちはら台自然学校 ・特定非営利活動法人ちば里山センター
- ・NPO 法人里山会 ・株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

- ・一般社団法人森のようちえんはっぴー ・NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 ・岩井民宿組合
- ・白浜オーシャンリゾート ・株式会社ちば南房総(道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富楽里とみやま)
- ・千倉町民宿組合 ・千倉オレンジセンター ・合同会社くじらのもり

一緒に千葉を元気に
しませんか？

会員校募集中！

【お問い合わせ先は裏面を
ご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

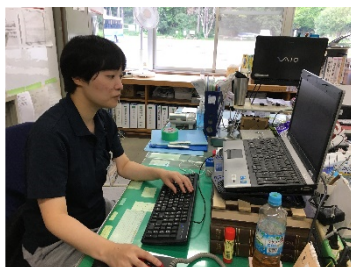
細川亜希子(あっこちゃん)千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県君津市出身。きみかめに務めて15年目。自然が大好きで子供の頃から山菜取りやキノコ狩りなどをしていました。7年前に子猫を保護してから猫好きになり、現在では実家で9匹飼っています！

きみかめでは庶務課として風呂沸かし・精算など裏方的なお仕事を担当しています。皆様が快適に過ごしていただけるよう日々努力しておりますので是非きみかめにお越しください。



きみかめの事務作業はお任せください！



【得意分野】

計算・暗記



【好きな事】

音楽・動画鑑賞/ゲーム/猫と戯れる

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ

- ・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- ・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの修復に向けて～

そろそろ築200年になろうとしている古民家「ろくすけ」。これまで多くの子どもやシニア世代の自然体験・地域交流の場として使用されてきましたが、母屋の屋根の損傷が著しくなってきました。その他、外壁なども劣化が目立っています。今までも皆さまからの協力で修復を続けてまいりましたが、再度ご協力のお願いになります。皆さまからのご支援をお待ちしています。(一口3,000円)

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)

振替口座 00170-5-259431

加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校

※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。

【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号

【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄

※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。

みなさまからの寄付で母屋屋根の一部を修復することが出来ました。

ありがとうございます
ごさいました



発行：NPO法人 千葉自然学校

■千葉事務所 〒260-0015 千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7階

電話：043-227-7103/FAX：043-202-7237

ホームページ：<http://www.chiba-ns.net> メールアドレス：info@chiba-ns.net

